

# 平成 30 年度山村学園短期大学事業報告

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 資格取得
- 4 学生募集
- 5 求人・就職
- 6 進路指導
- 7 本学への評価
- 8 財務状況予測
- 9 私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得
- 10 東上地域大学教育プラットフォームへの参画
- 11 東松山市との協定締結
- 12 生活指導
- 13 平成 30 年度事業の達成と一覧

## 1. 概要

2018年度入試において入学予定者が71名となり、2019年度の入学予定者も71名である。予想していたレベルを下回り、財務状況はさらに厳しくなった。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られている。

教職課程の再課程認定がなされたうえに保育士資格に係るカリキュラムの改変が通達され、本学のカリキュラムを大幅に変更した。2019年度についても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応、それに伴う三つのポリシーの見直し、規程の整備等行政への対応が大きな課題となる。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は向後数年間は続くと思われる。

## 2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

3つの方針について点検、見直しを行った。新しいポリシーは以下のとおりである。

### (1) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積GPA一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ① 保育者としての専門的知識・技能
- ② 社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

- ③ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ④ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする主体的・積極的な態度
- ⑤ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ⑥ 社会人として必要なマナー・常識・態度

### (2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修過程や学修方法が明示された教育内容、教

育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

(教育内容)

- ① 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統性をふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。
- ② 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。
- ③ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「基礎演習」「キャリアアップセミナーⅠ」を、2年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「総合演習」「キャリアアップセミナーⅡ」をそれぞれ配置します。
- ④ 保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目等を配置します。

(教育方法)

- ① シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。
- ② 授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。
- ③ 保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編制で効果的に学習できる授業展開とします。
- ④ 免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

(評価)

- ① 単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況を評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。
- ② 授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善、カリキュラム編成の改善を検討します。

(3) アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

（知識・技能）

- ① 幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。
- ② 音楽、造形、言語、身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。
- ③ 社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

（思考力・判断力・表現力）

- ④ 学びの基礎となる読む、書く、聞く、話す能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ⑤ 幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。
- ⑥ 人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ⑦ 笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

### 3. 資格取得

- (1) 保育士資格は、66名取得（卒業生 66名）
- (2) 幼稚園教諭2種免許状は、56名取得（卒業生 66名）
- (3) L.S.F.A.Children's F I R S T A I D E R（乳児小児救命法）37名取得
- (4) ピアヘルパーは、14名取得
- (5) ネイチャーゲームリーダーは、18名取得。
- (6) キャンプインストラクターは、7名取得。
- (7) Natural 保育検定

本学オリジナルの検定である（オリジナルテキストあり）。動植物の名前を覚え、保育に活かす知識、技能に関する検定を行う。過去の実績は次の表のとおり。

	平成 25 年度生	平成 26 年度生	平成 27 年度生	平成 28 年度生	平成 29 年度生	平成 30 年度生
Natural 保育検定 基礎編	19	45	36	58	55	48
Natural 保育検定 応用編	7	20	20	22	23	28

### 4. 学生募集

入学者数推移（人）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年
人数	87	74	71	71

左の表は、過去3年間の保育学科入学者数を示したも

	h27	h28	h29	H30	h31	合計	平均
川越市	10	10	10	6	9	45	9.0
東松山	12	6	10	5	8	41	8.2
坂戸	6	10	5	9	5	35	7.0
鶴ヶ島	3	6	3	5	4	21	4.2
霧居町	2	2	5	3	5	17	3.4
毛呂山	4	3	2	5	2	16	3.2
小川町	6	5	3	0	2	16	3.2
志じみ野市	4	3	4	4	0	15	3.0
日高市	6	1	1	1	5	14	2.8
吉見町	2	3	2	3	2	12	2.4
秩父市	7	2	2	0	1	12	2.4
川島	3	3	1	2	1	10	2.0
嵐山	0	1	2	2	3	8	1.6
富士見市	0	5	0	2	1	8	1.6
鳩山町	1	3	3	1	0	8	1.6
深谷	2	2	1	1	0	6	1.2
越生	2	1	0	0	2	5	1.0
所沢市	0	1	1	1	2	5	1.0
滑川	2	1	1	0	1	5	1.0
秩父郡	1	0	3	0	1	5	1.0
狭山市	0	2	1	0	1	4	0.8
熊谷	2	0	1	1	0	4	0.8
上尾市	2	0	2	0	0	4	0.8
入間市	2	0	0	0	1	3	0.6
飯能市	1	1	0	1	0	3	0.6
さいたま市	1	1	0	0	0	2	0.4
ときがわ	0	0	1	1	0	2	0.4
行田市	0	0	1	1	0	2	0.4
鴻巣市	0	2	0	0	0	2	0.4
北本市	0	0	0	0	0	0	0.0
桶川市	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	81	74	65	54	56	330	

のである。

左の表は、過去5年間の主な市町村別入学者人数

（職訓生7名除く）東松山、川越、坂戸、鶴ヶ島などが多い。鳩山はベスト10圏外となった。東松山からの入学者数は回復したが、特定の地域に限らず、全般的に人数が減っている。

主な高校からの入学者数

高校名	H27	H28	H29	H30	H31
山村国際高校	4	12	10	8	6
川越西高校	5	6	3	4	6
小川高校	6	6	4	5	5
県立越生	1	0	2	0	5
松山女子高校	2	1	1	5	3
武蔵越生	2	0	3	4	3
寄居城北	6	1	3	2	3
新座柳瀬	2	0	1	2	3
鴻巣女子高校	1	2	6	0	3
筑波大学付属坂戸高校	0	1	0	2	2
埼玉平成高校	0	1	2	1	2
川越初雁高校	0	0	1	1	2
狭山清陵高校	0	0	0	1	2
滑川総合高校	8	5	5	4	1
秋草学園高校	1	2	2	3	1
鳩山高校	2	3	3	1	1
富士見高校	0	1	2	1	1
飯能南	0	0	0	1	1
飯能高校	4	0	0	0	1
朝霞西	0	1	0	0	1
東京成徳大学深谷高校	4	3	1	3	0
鶴ヶ島清風高校	4	2	3	2	0
川越総合高校	5	1	0	2	0
山村学園高校	3	2	3	1	0
坂戸西高校	6	8	2	1	0
志木高校	0	5	2	1	0
豊岡	2	0	0	1	0
ふじみ野	1	0	0	1	0
市立川越	1	0	0	1	0
伊奈総合学園高校	1	0	1	0	0
誠和福祉高校	0	0	1	0	0
日高高校	2	1	0	0	0
本庄第一	3	1	0	0	0
正智深谷高校	1	0	0	0	0
大宮武蔵野高校	1	0	0	0	0
朝霞高校	0	0	0	0	0
西武台	0	0	0	0	0
深谷商業高校	0	0	0	0	0
狭山経済	1	0	0	0	0

79 65 61 58 52

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H28	H29	H30	H30	
		割合	割合			割合	割合			
資料請求数	1262	100%	920	100%	1006	100%	943	100%	657	100%
参加者人数（延べ数）	556	44%	463	50%	364	36%	277	29%	318	48%
参加者人数（1、2、3年生の実質数）	304	25%	254	28%	239	24%	179	19%	193	29%
参加者人数（3年生のみの実質数）	209	17%	160	17%	141	14%	125	13%	110	17%
次年度志願者数	107	9%	89	10%	74	7.4%	64	6.7%	65	10%
次年度志願者数/参加者人数（3年生のみの実質数）	51%		56%		52%		51%		59%	

上の表は、平成 26 年度からのオープンキャンパス（年に 10 回前後）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。全体の数は減少傾向にあるが、資料請求者数の約 1 割が志願している。ここ 2 年間は、その割合は年々小さくなっていったが、平成 30 年度は再び 10% となった。

オープンキャンパスに参加した 3 年生のうち実際に志願する割合は高く、平成 30 年度は 59% となっている。

## 5. 求人・就職

求人票の受付数			
H30			
	県内	県外	合計
保育所	226	283	509
幼稚園	183	92	275
施設	60	43	103
H29			
	県内	県外	合計
保育所	229	299	528
幼稚園	197	87	284
施設	51	45	96
H28			
	県内	県外	合計
保育所	267	350	617
幼稚園	176	82	258
施設	51	45	96
H27			
	県内	県外	合計
保育所	273	342	615
幼稚園	161	73	234
施設	46	40	86
H26			
	県内	県外	合計
保育所	214	263	477
幼稚園	162	56	218
施設	48	56	104

左の表は、平成 26 年度からの求人票数の推移をまとめたものである。平成 30 年度の求人票数を見ると保育所、幼稚園、施設それぞれについてかなりの数に及ぶのがわかる。求人票数は微減傾向にあるが、県内県外の保育者に対するニーズは依然高いと言える。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

また、キャリアタス UC というキャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、2019 年 3 月卒業生向けが、4,429 事業所（求人件数 10,432 件）届いている。企業が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等、全国多岐に亘っている。

## 6. 進路指導

### H30 求人票の受付数

	県内	県外	合計
保育所	226	283	509
幼稚園	183	92	275
施設	60	43	103

就職状況については、例年高い就職率を残している。平成 30 年度も就職率 100%を維持する見込みである。求人票数については左の表のとおりであり、求人数に換算するとさらに 2 倍から 3 倍になると思われ、1,000 人から 1,500 人の求人数に及ぶと思われる。

### 公務員試験合格者

	H28	H29	H30	H31
現役合格	5	2	4	4
過年度卒	3	0	1	3
合計	8	2	5	7

公務員合格者については、公務員合格のための進路ガイダンスのコースを設け、指導している。

## 7. 本学への評価

### (1) 就職先からの評価

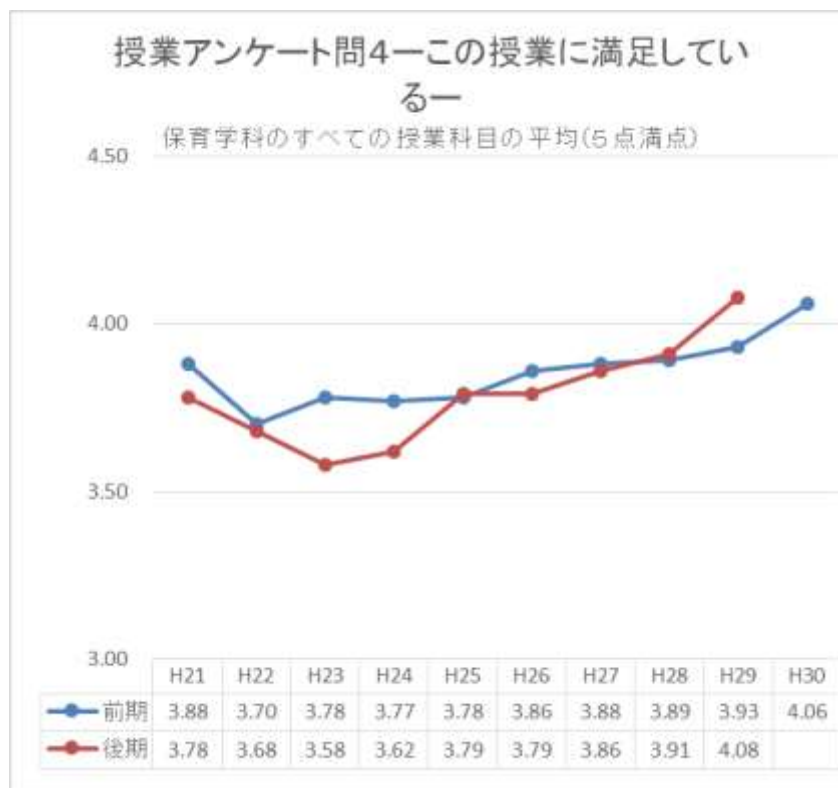
上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。前年度よりも低い数値となっているが、全体的にはまずまずの評価である。

山村学園短期大学 キャリア支援センター				
卒業生勤務状況調査(所属長回答)				
回答率80.8%(依頼52・回答42) コメントは平成29年度卒業生に関する記述				
<b>出勤状況</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	70.5	78.3	76.5	77.2
(2)ふつう	19.7	14.5	19.6	21.1
(3)努力が必要	4.9	5.8	2.0	1.8
初めの頃感染症にかかり休んだ。遅刻・早退なく勤務している。頑張りすぎないように気をつけてほしい。体調管理を行い休み無く勤務している。				
<b>勤務態度</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	63.9	63.8	68.6	64.9
(2)ふつう	29.5	31.9	29.4	35.1
(3)努力が必要	1.6	2.9	0.0	0.0
積極性が出てきて、一つひとつに意欲的に取り組んでいる。慣れない事も一生懸命に行い自ら質問をして問題を解決している。他クラスの職員とのコミュニケーションの希薄さを少々感じる。				
<b>幼児(施設:利用者)への関わり方</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	45.9	49.3	58.8	45.6
(2)ふつう	45.9	40.6	39.2	47.4
(3)努力が必要	4.9	8.7	0.0	7.0
障害児との関わりが大変上手。明るく子どもたちに慕われている。指導された事を実践、明るく声がけをし積極性も出てきている。一つの方法にこだわらずいろいろと工夫したり考えてほしい。もう少し笑顔がほしい。				
<b>環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	27.9	30.4	43.1	24.6
(2)ふつう	60.7	58	52.9	59.6
(3)努力が必要	6.6	10.1	0.0	15.8
与えられた担当をしっかりと行っているが、自らの気付きに期待。その日に行う事のやり方等をしっかりと把握し環境構成をきちんと考えるようにするとより良い保育が出来ると思う。				
<b>保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	36.1	34.8	35.3	28.1
(2)ふつう	50.8	52.2	49.0	59.6
(3)努力が必要	6.6	11.6	7.8	12.3
積極的に話しかける事が出来子どもたち同様保護者からも信頼されている。対応に苦手意識がある。大人との関わりは一定の経験や年数を要す。保護者と信頼関係を築く前から子どもの名前を呼び捨て等気になった。				
<b>他の職員との協調性</b>				
年度	26	27	28	29
(1)たいへんよい	49.2	59.4	62.7	56.1
(2)ふつう	44.3	27.5	33.3	40.4
(3)努力が必要	1.6	10.1	2.0	3.5
自ら輪の中に入り会話を楽しみながらコミュニケーションをとっている。持ち前の明るさを活かし年上の先生にも話しかけ相談する事が出来ている。甘えるだけでなくしっかりと自分の意見も言える。他の職員が何をしているかよく見て仕事を進められると良い。				



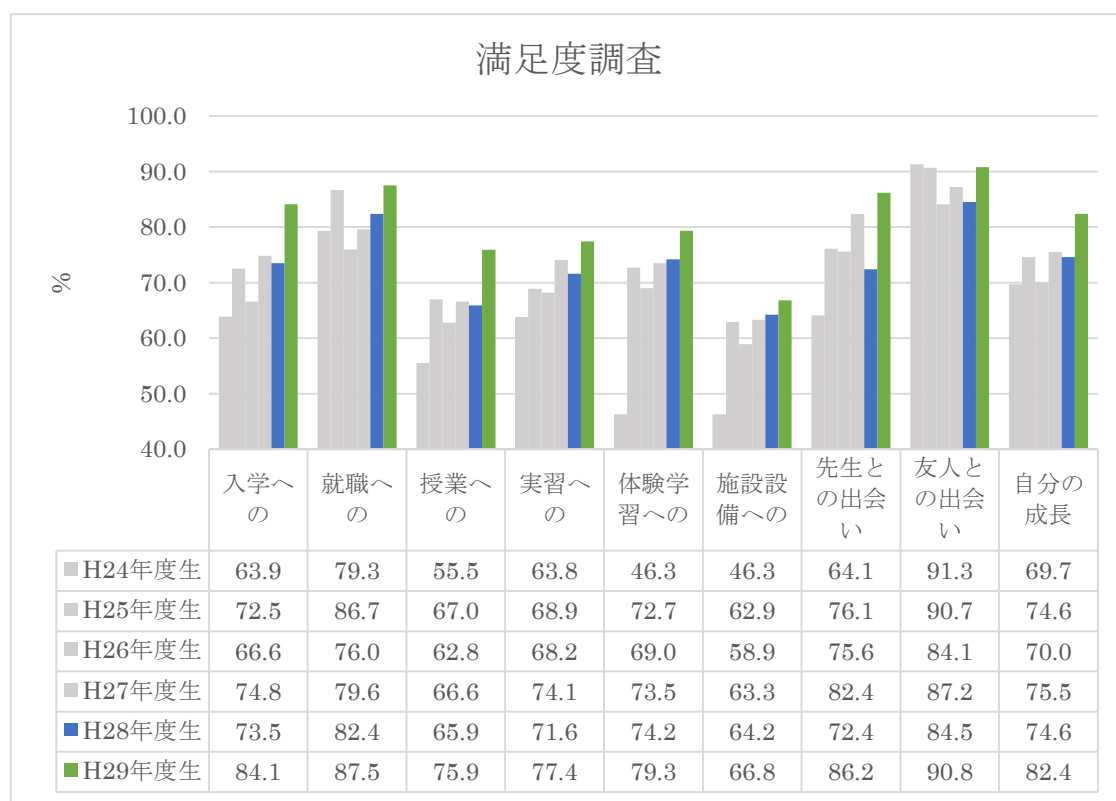
その他(本学への要望等)									
〈よいコメント〉									
自分から積極的に研修へ参加をしていて向上心が高い。									
いつも笑顔を絶やさず仕事をしています。私たちも見習おうと思います。									
体調不良や遅刻・早退もなく日々仕事を覚えながら頑張ってくれています。今後ともよろしくお願いします。									
慣れない環境と人間関係の中で、笑顔を絶やすことなく頑張って、他スタッフからの指導も身につけ、最近では自信も出てきている。これからが楽しみ。									
丁寧に学生さんを育ててくださっていると思います。毎年優しくてやる気のある方が努めて下さって嬉しいです。									
卒業生は大変優秀な職員です。今後ともよろしくお願いします。									
とても真面目に勤務されており今日からは夜勤業務もスタートします。人手不足の折、介護職の募集は随時しておりますのでご希望の方がいらっしゃいましたらご紹介いただければと思います。今後ともよろしくお願いします。(施設)									
今まで通りで大丈夫です。よろしくお願いします。									
夜勤も入る様になり順調にきています。(施設)									
これからは素直で学ぶ姿勢を持った学生が来てくれる事を望みます。									
〈要望としてのコメント〉									
ピアノの指導をしっかりとほしい。									
特に問題なく全体的にはいい学生さん達でした。ただピアノを弾けない子が多いようですのでしっかり指導してほしい。									
保育から障害者の施設に転向してきた為、障害者総合支援法などの知識は少ない。準備期間中(在学中)に制度の確認するなどあると良いと思います。(施設)									
認可外で働いて頂ける方がいらっしゃったら、ご紹介下さい。									

(2) 授業への評価



左のグラフは、保育学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。平成23年、平成24年と満足度が低い年があったが、平成25年から評価が上がり、平成29年、30年度は過去最高値を記録した。

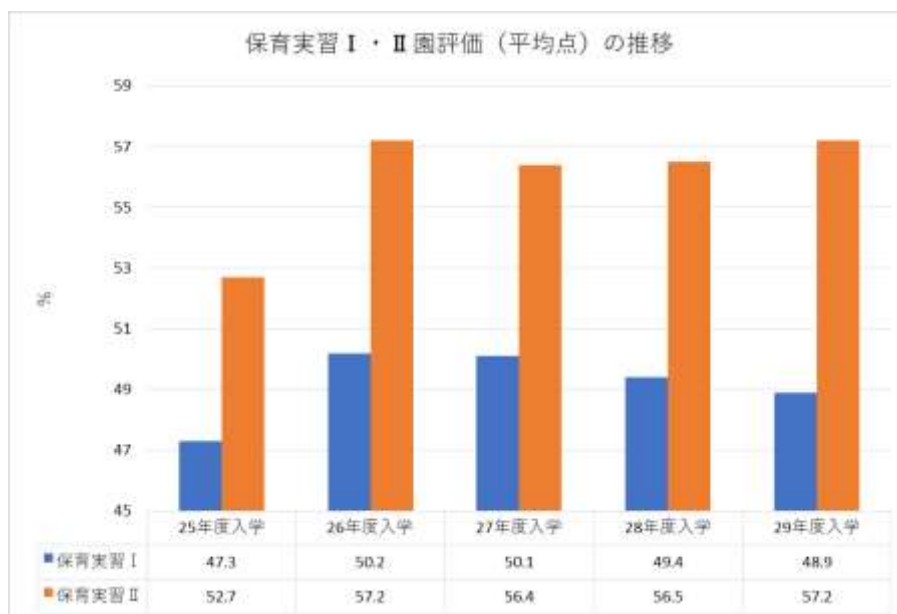
### (3) 学生満足度調査



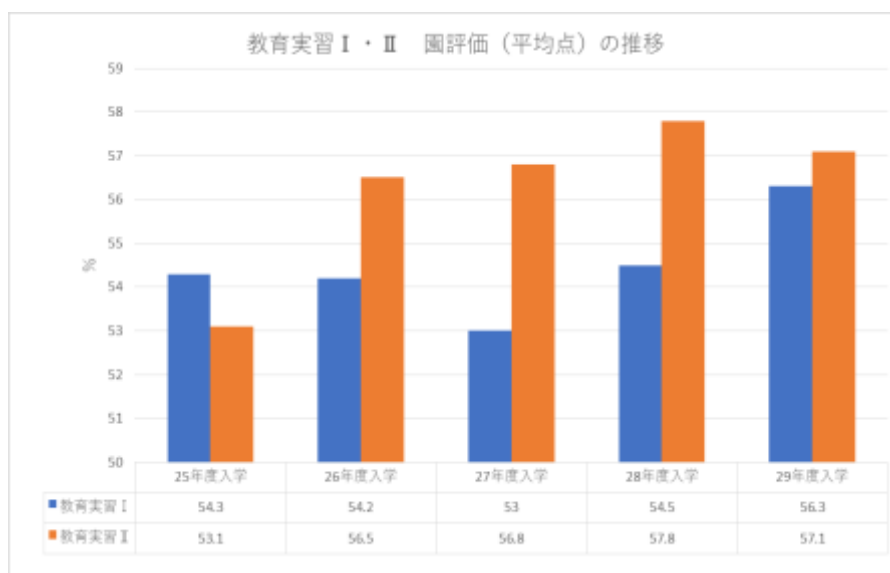
上のグラフは、短大全体について卒業生（平成25年3月卒業～平成30年3月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「友人との出会い」、「自分の成長」、「就職」に関して90%前後と非常に高い満足度である。

一方、「施設設備」、「授業」に関する満足度は相対的に低いものの緩やかに上昇傾向にある。

(4) 実習での評価



上の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。平成26年度生以降については、安定した評価となっている。



上の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。平成26年度入学生教育実習Ⅱの点数が飛躍的に高くなり、平成27年度以降についても高いポイントを維持している。教育実習Ⅰについては年々評価が高くなっており、授業、指導の改善の成果が出ている。

## 8. 財務状況予測

(短大)

資金収支計算書より (収入の部)	1年	71名(職訓7)	71名(職訓8)	70名+(職訓)	70名+(職訓)	70名+(職訓)	備考
	2年	66名	70名(職訓7)	70名+(職訓)	70名+(職訓)	70名+(職訓)	
	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
学生生徒等納付金収入	178,290	153,790	150,045	162,045	172,550	172,550	
手数料収入	2,323	2,420	2,400	24,000	24,000	24,000	
寄付金収入	2,252	500	560	600	600	600	
補助金収入	22,879	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	
付随事業・収益事業収入	7,233	14,970	23,829	23,000	23,000	23,000	
資産売却収入	0	0	0	0	0	0	
雑収入	5,753	7,690	5,450	5,000	5,000	5,000	
借入金等収入	0	0	0	0	0	0	
計	218,730	206,370	209,284	241,645	252,150	252,150	A

(支出の部)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	備考
人件費支出	165,300	159,890	163,310	165,000	163,000	163,000	
退職金支出	0	0	0	0	0	0	
教育研究経費支出	25,500	21,220	21,417	26,000	27,000	27,000	
修繕費支出							
事業内容② 空欄 教育棟1階							
事業内容② 空欄 教育棟2階							
事業内容⑤ 音楽教室棟							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央1階							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央2階							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央3階							
事業内容⑦ 教育棟、体育館屋根塗装 (H28年は体育館屋根のみ)							
事業内容⑧ 美音館屋根の塗装							
事業内容⑨ 体育館屋根支柱塗装							
事業内容⑩ 教育棟・体育館壁面浮き補修 窓枠防水工事							
その他の修繕費							
奨学費支出	2,250	1,550	2,250	2,250	2,250	2,250	
その他							
管理経費支出	29,900	27,730	26,610	27,000	27,000	27,000	
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0	
施設関係支出	0	0	0	0	0	0	
設備関係支出	2,400	1,740	2,000	1,500	1,500	1,500	
事業内容① 受水槽・浄化槽 H29は受水層 H32は浄化槽							
事業内容③ 本館ボイラーの更新							
事業内容④ 県道副隣壁工事							
その他							
(*法人本部負担金分)	9,000	11,610	11,000	11,000	11,000	11,000	
(*割増退職金負担分例年分)							
支出の部計	232,100	222,190	224,337	230,500	229,500	229,500	
収支差額	-13,370	-15,820	-15,053	11,145	22,650	22,650	
(*割増退職金負担分キャリコミ分)							
資金の積み立て分	0	0	0	0	0	0	
・減価償却引当特定預金	0	0	0	0	0	0	
計	232,100	222,190	224,337	230,500	229,500	229,500	B
収支差額(1)	-13,370	-15,820	-15,053	11,145	22,650	22,650	C=(A-B)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	備考
次年度繰越金予測	143,888	128,068	113,015	124,160	146,810	169,460	
積立資金累計	0	0	0	0	0	0	

(1) 条件設定

- ・ 平成 27 年度からは、キャリア コミュニケーション学科がなくなり、保育学科単科となる。
- ・ 平成 32 年以降、入学者は 80 名を想定。
- ・ 補助金は、2,700 万円を想定。うち 1,000 万円は私立大学等改革総合支援事業を想定している。
- ・ 人件費は、教員数 11 名、現状維持で想定。11 名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 退職金の収入、支出に関しては数字から除外。
- ・ 職業訓練生を受け入れる。平成 32 年度からは 10 名の枠で募集をして 8 名の入学者を想定。
- ・ 高校卒+職業訓練生の合計が 75~80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定資産や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(2) 人件費

人件費は、専任教員 11 名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。事務局員は例年と同様 6 名とした。また、平成 30 年度の一時金は 3.0 か月とした。

(3) 施設・設備更新

施設設備の更新については、一時停止し、財務状況の推移を見る。必要な修繕については行う。

(4) 次年度繰越金

平成 30 年度の次年度繰越金は減少する。補助金が 2,700 万円獲得でき、かつ高校卒+職業訓練生の合計が 75~80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(5) 積立金

積立金については、平成 31 年度（2019 年度）については行わない。

(6) その他の経費節減

なお、経費節減については、平成 29 年度に合計約 900 万円の経費節減計画を実行し、平成 30 年度はさらに 210 万円の経費節減を実行した。平成 31 年度（2019 年度）に関しては、当面これまでの経費削減を持続させる。

## 9. 私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業」の支援対象校に選定されることによって補助金を獲得することができる。平成 28 年度に約 900 万円の補助金を獲得できた。平成 30 年度は「教育の質的転換」（タイプ 1）及び「プラットフォーム形成」において選定された（約 1100 万円）

## 10. 東上地域大学教育プラットフォームへの参画

平成 30 年 8 月 1 日より、東松山市、坂戸市、鳩山町、熊谷市、滑川町、吉見町、越生町、毛呂山町、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、狭山市、入間市の特定地域の 17 の私立大学が協働して行う、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（地域の私立大学が協働して、多様な高等教育の提供、生活しやすい地域づくりへの貢献、地域産業の活性化などの諸課題に取り組むしくみ）に本学も参画し、その中で履修証明プログラムの提供、単位互換制度の推進、機能別消防団への取組み、子育て支援に関する事業の推進などを行っている。

## 11. 東松山市との協定締結

平成 30 年 7 月 19 日、東松山市と山村学園短期大学との連携協力に関する包括連携協定を締結した。これは包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の課題解決及び大学の教育・研究機能の向上を図り、もって地域社会の発展に寄与することを目的としている。

## 12. 生活指導

	平成 26 年度生 97 名入学 →92 名	平成 27 年度生 94 名入学 →83 名	平成 28 年度生 87 名入学 →79 名	平成 29 年度生 73 名入学 →67 名	平成 30 年度生 73 名入学 →72 名
1 年時退学者数	5	10	8	6	1
2 年時退学者数	0	1	1	0	0
退学者数合計	5	11	9	6	1

上の表は、退学者数を表したものである。平成 30 年度は両学年併せて 1 名の退学者のみであり、評価できる結果となった。平成 28 年度入学生の 1 名が 3 年目を迎えていたが、途中で退学した。

### 13. 平成30年度事業の達成度一覧

平成30年度		
学生募集 ・目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の数100名を基準。</li> <li>・資料請求数1150、志願者数85名が目標。</li> </ul>	×
学生募集方法 ・継続実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学科名のPR</li> <li>・募集強化校を設定し、目標値を明確にする。</li> <li>・高校訪問回数を増やし、進路指導の先生方の要望に適時に対応することにより入学者を確保する。</li> <li>・ホームページデザインの更新、ランディングページ作成。</li> <li>・本学在学生の出身高校へ写真メッセージ付チラシを作成、配布。</li> <li>・公民館等に履修プログラムの案内を配布する。</li> <li>・満足度が高いことをPRする。</li> <li>・地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。</li> </ul>	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
学生募集確保 ・新たな試み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルティング会社の活用。本学の強み整理、HP工夫、動画作成。</li> <li>・SNSをフルに活用した広報を行う。</li> <li>・GOOGLE、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブ、ラインでの広報を展開。</li> <li>・SNSを活用した広報に関する作業部会設置。</li> <li>・学生による画像、動画の作成、PR。</li> <li>・その他高校側のニーズを開拓（定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化）</li> <li>・保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。</li> </ul>	○ △ ○ △ × △ △
私立大学等改革 総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「建学の精神を生かした大学教育の質向上」（教育の質的転換）と「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」（地域発展）の選定を受けることにより、補助金の獲得が期待できる。（ちなみに平成28年度は約900万円獲得、平成29年度は獲得なし）全学を挙げて取り組んでいくこととする。</li> </ul>	◎
新カリキュラム策定 ・コンセプトの点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学科名、「子ども学科」に対応したカリキュラムを作る。</li> <li>・「教職課程の再課程認定」に対応したカリキュラムを作成する。また、再課程認定の申請に関する申請を行う。</li> <li>・保育士養成課程の変更に対応したカリキュラムを作る。</li> <li>・自然環境を保育に活かせるカリキュラムを作る。</li> <li>・保育士資格取得を卒業要件から外したカリキュラム</li> <li>・資格での卒業を可とする新たなコースに関する検討。</li> </ul>	○ ◎ ◎ △ ○ ×
卒業までに身につけるべき学習成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立。</li> <li>・カリキュラムマップ、ポートフォリオの運用定着。</li> <li>・3つのポリシーの点検見直し</li> </ul>	△ △ ◎
授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期ともに問四4.0以上を目標とする。</li> </ul>	◎
少人数教育の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが90%以上になることを目標とする。</li> </ul>	○
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰは50点以上、保育実習Ⅱは55点を基準。</li> <li>・幼稚園実習Ⅰは55.0、幼稚園実習Ⅱは58.0を基準。</li> </ul>	○ ○
自然を活かした保育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Natural 保育検定基礎編合格者数について、平成29年入学生の合格60名。平成30年入学生45名を目標。</li> <li>・Natural 保育検定応用編合格者数について、平成29年入学生の合格者30名。平成30年入学生15名を目標。</li> </ul>	○ ○
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者防止。退学者0を目標。最高でも3まで。</li> </ul>	◎
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標</li> <li>・公務員試験合格人数3名以上</li> <li>・就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況80%、勤務態度70%、幼児への関わり方50%、環境構成力40%、保護者への関わり方35%、他の職員との協調性60%を目標</li> </ul>	○ ◎ △
施設・設備	改修は一時停止	
学生満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学への満足度80%、就職への満足度85%、授業への満足度75%、実習への満足度75%、体験学習への満足度80%、施設設備への満足度70%、先生との出会いへの満足度85%、友人との出会い90%、自分の成長80%を目標</li> </ul>	◎
人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員数については最少人数で臨む。</li> <li>・事務局員についても同様。</li> </ul>	◎ ◎